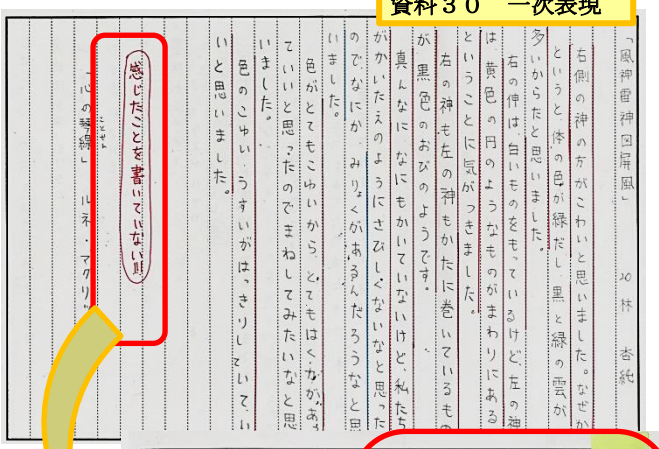
学　　習　　活　　動
⑶表現を工夫して、下書きをする。：サンプル文集Ｂ（自分の課題に応じて参考にする） ⑷下書きを完成させて、グループで読み合う。 ：サンプル文集Ｂ（自分のアドバイスの根拠とする） 交流（よりよい表現を提案するとともに、鑑賞文の特質、効果的な表現についての理解を深める） ⑸下書きを見直し、清書する。 ３、書いたものを読み合い、グループで意見を交流し、学習を振り返る。① ：交流（お互いのよさを認め合うことで達成感を感じることができるようにするとともに、鑑賞文の特質や書くときのポイントについて理解を深める）

⑥　指導の実際

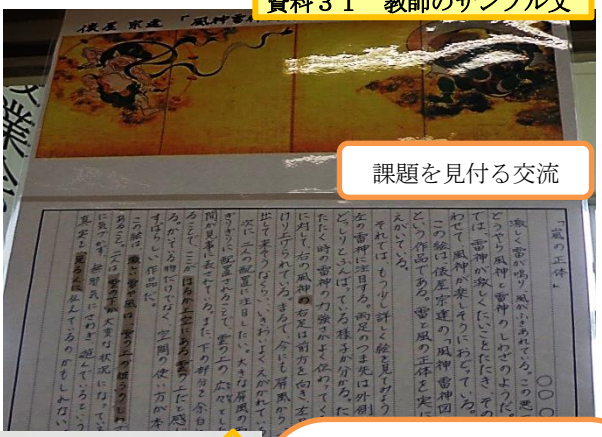
【着眼１】交流活動を位置付けた学習展開を行う

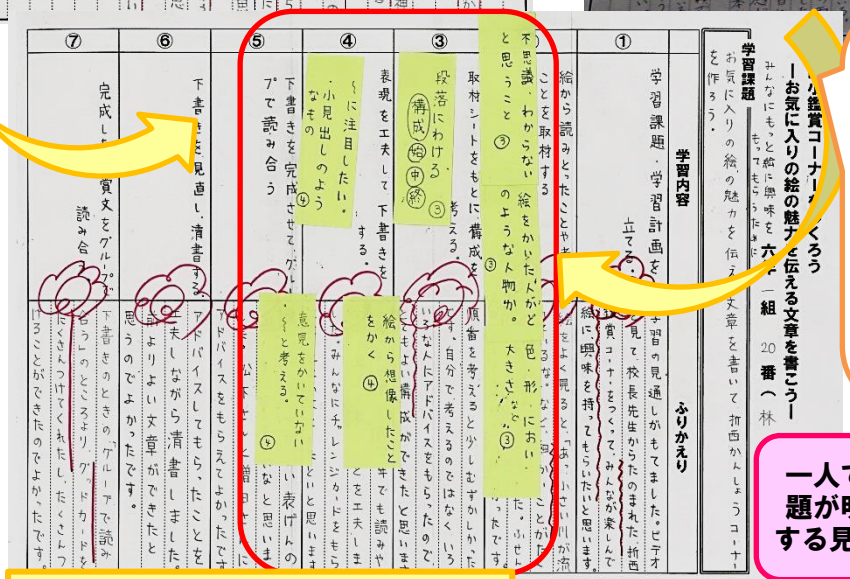
〈着眼１－①〉一次表現の課題に気付き、見直すための交流活動を行う。

資料３０　一次表現



資料３１　教師のサンプル文





資料３２　自分の課題を書き込んだ学習計画

① 自分の一次表現と教師のサンプル文を比較し、自分の鑑賞文の課題を見付ける。
② グループ交流を通じて考えを広げたり深めたりする。
③ 交流で新たに見付けた課題も加えて、自分の学習計画に書き込む。（緑の付箋）

一人では気付けなかった自分の課題が明確になり、よりよい文章にする見通しが明らかになる。

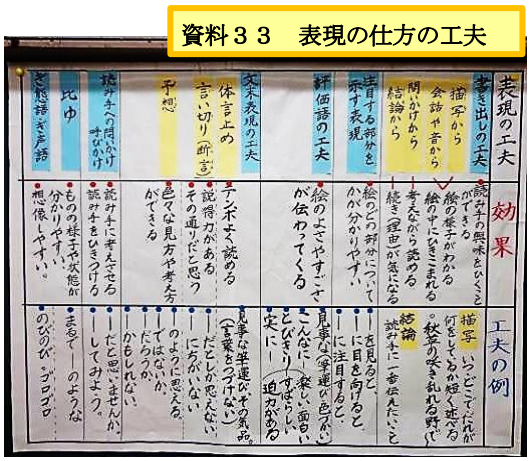
児童が「風神雷神図屏風」について書いた鑑賞シート（**資料３０**）と、学習課題設定後、教師が「風神雷神図屏風」を取り上げて書いたサンプル文（**資料３１**）を比較する活動を設定した。この交流のねらいは、鑑賞文の特質に対する理解をを深め、自分の課題を明確にすることである。児童は、まず、自分なりに気付いたことを書き、その後全体で交流した。その活動を通じて、自分では気付かなかった教師のサンプル文のよさに気付き、さらに比較することで、自分の一次表現の課題にも気付くことができた。また、その後、少人数のグループでお互いの課題を見合う交流活動を設定したことで、**資料３２**のように、一人では気付くことができなかった各自の課題を見付け、学習計画に盛り込むことができた。これにより、児童は全体で学習しながらも、自分の目的に合った課題について試行錯誤しながら学習を進めていくことができた。

〈着眼１－②〉よりよい表現をめざし、自分の表現に生かす交流活動

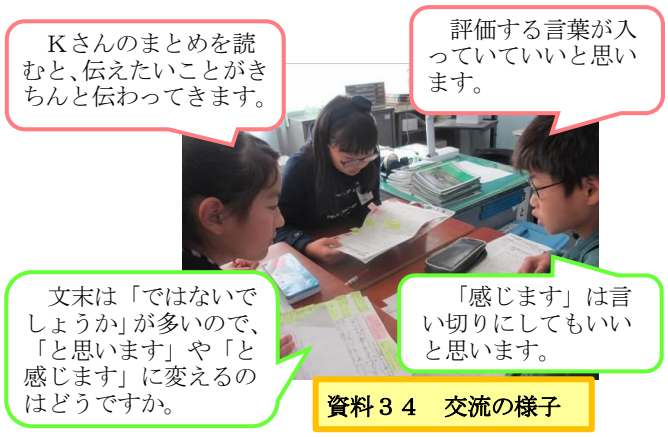
表現過程の各段階でよりよい表現をめざした交流を組んだ。ここでは、特にこの単元の重点課題である記述と推敲に焦点を当てて述べる。

○　記述の段階（着眼２で詳しく記述）

高学年の児童が一番困難に感じるのは記述の段階である。そこで、まず、鑑賞文を書くときには、どのような「表現の工夫の仕方」（資料３３）があるのかサンプル文集Ｂをもとに話し合う活動を設定した。それぞれに配布されたサンプル文集を読みながら、効果的だなと思われる表現の工夫や、それによってどのような効果があるのかを考えさせる活動を設定した。それにより、書くことが苦手な児童も「自分はどの表現をつかって表そうかな」という思考活動を生み出すことができた。また、それぞれが気付いたことを学級の友達と交流する中で、自分の気付かなかった工夫に気付き、自分が選んだ絵の魅力をより分かりやすく読み手に伝えるために、効果的な表現の工夫についての考えを深めながら書くことができた。


資料３３　表現の仕方の工夫

また、下書きの途中で自分が上手く書くことができた部分や悩んでいる部分をグループで交流する活動を設定したことで、児童がグループの友達とお互いに助言し合い、よりよい表現で適切に書く力の伸びが見られた。



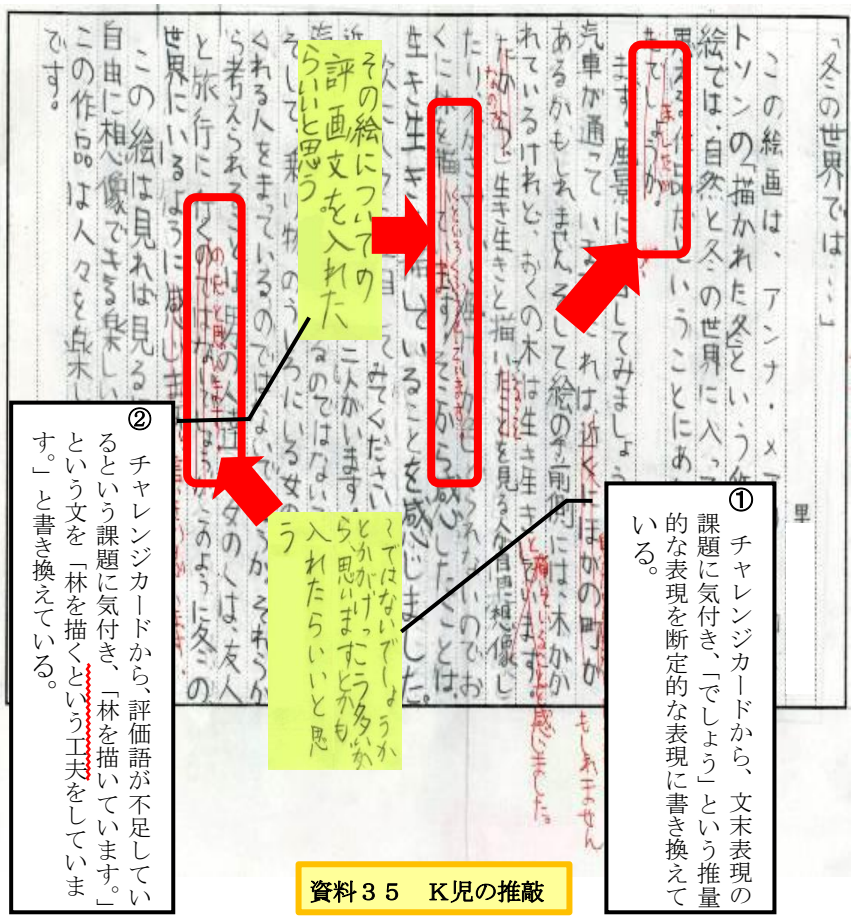
資料３４　交流の様子

○　推敲の段階

前述の「表現の工夫」をもとに、グループで下書きを読み合い、よいところやアドバイスを書き込んだ。それをもとにお互いの鑑賞文がよりよくなるように交流活動を設定した。児童は資料３４のように友達の文章に付けたグッドカード（よいところ）やチャレンジカード（アドバイス）を紹介し合い、意見を交流した。

資料３５は、それを受けて推敲しているＫ児の原稿である。チャレンジカード（緑色：友達からのアドバイス）を取り入れて効果的な表現になるように工夫している様子が分かる。

児童は交流を通して、客観的にお互いの文章を読み合い、気付かなかった課題を見付け、自分の思いがよりよく

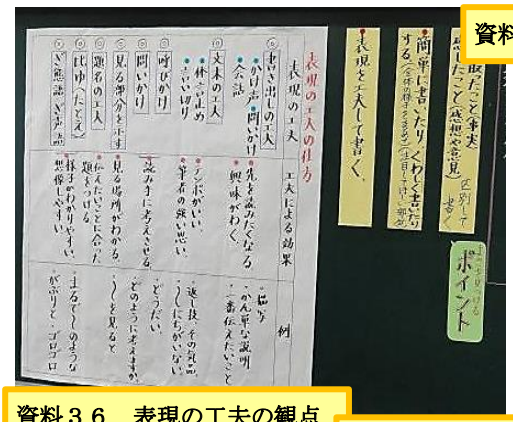


資料３５　Ｋ児の推敲

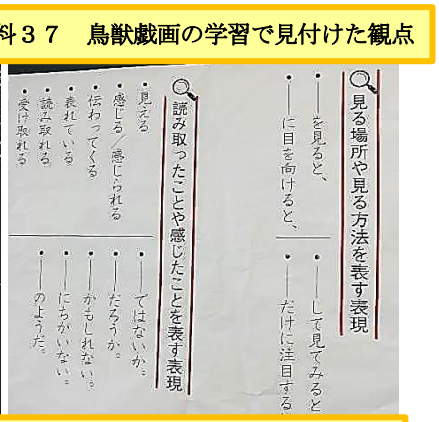
伝わるように考えを深めていることが分かる。

〈着眼１－③〉自分の学びを実感で　きる交流活動を行う。

単元の終末時に、完成した鑑賞文をグループで読み合い、お互いのよさを見つけ合う交流活動を設定した。その際、児童が主体的に友達の文章の内容や表現のよさを見つけられるよう「よさ見つけの観点」を話し合う活動を行った。**資料３６**や**資料３７**のように「鳥獣戯画」の学習や本単元の前時までの学習からまとめていったポイントを振り返ることでよさを見付けるポイントを意識することができた。

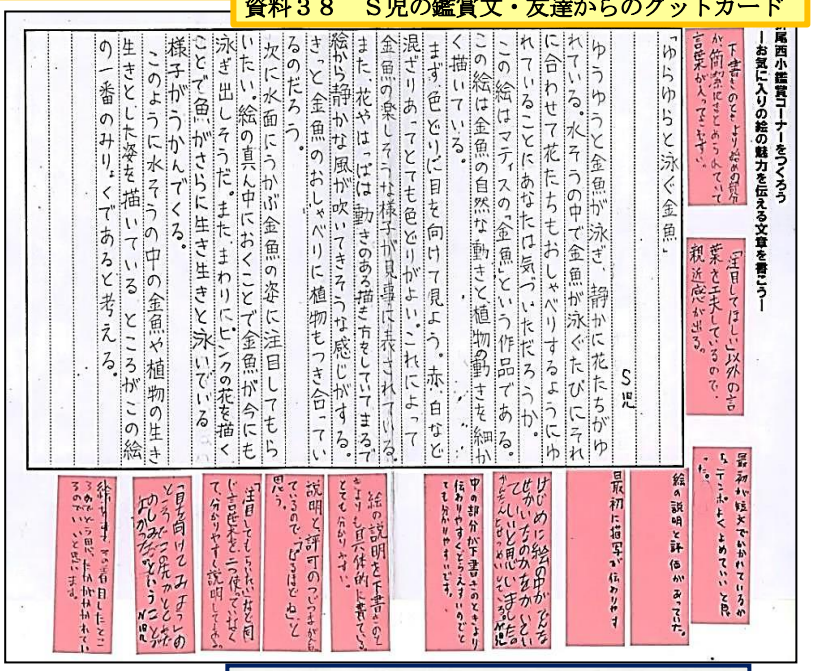


資料３６　表現の工夫の観点



資料３７　鳥獣戯画の学習で見付けた観点

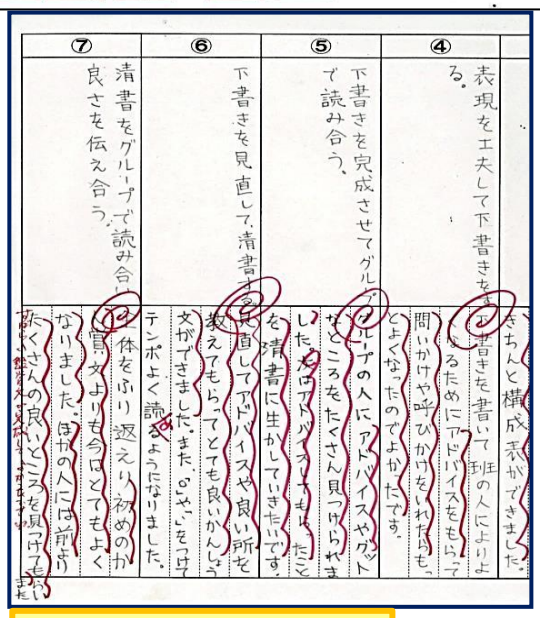
それをもとにＳ児は**資料３８**のように、表現の仕方に着目して友達の鑑賞文のよさをみつけることができた。また、自分の鑑賞文にグッドカードがたくさんはられていたことへの喜びを感じるとともに、見直していくことで、よりよい鑑賞文に仕上がり達成感を味わうことができている。



資料３８　Ｓ児の鑑賞文・友達からのグットカード

「鳥獣戯画」で学んだ表現の工夫やサンプル文から読み取った表現の工夫をしっかりとらえ、それらを観点として交流活動を行ってきたので、スムーズに話し合いが進み、表現の工夫を中心に友達の鑑賞文のよさを見つけることができた。

Ｔ児も友達との交流活動に積極的に参加し、自分の鑑賞文をよりよいものにしようと努力していた。**資料３９**のように、ふり返りカードには、「アドバイスをしてもらってとてもよい下書きシートができた。」「清書が完成してうれしい。班の人と読み合うのが楽しみだ。」など、交流を通してよりよい鑑賞文に仕上がっていくことに満足していた。また、完成した鑑賞文にグッドカードがたくさん貼られていたので大変喜び、「自分の鑑賞文によいところがたくさんあってびっくりした。ミッションが達成できてよかった。」と達成感が感じられる感想が書かれていた。



資料３９　Ｔ児の振り返りシート

【着眼２】文種に応じて、重点化した内容の書く指導の工夫を行う。

〈着眼２－①〉ねらいを明確にしたサンプル文の活用

○　課題設定の段階

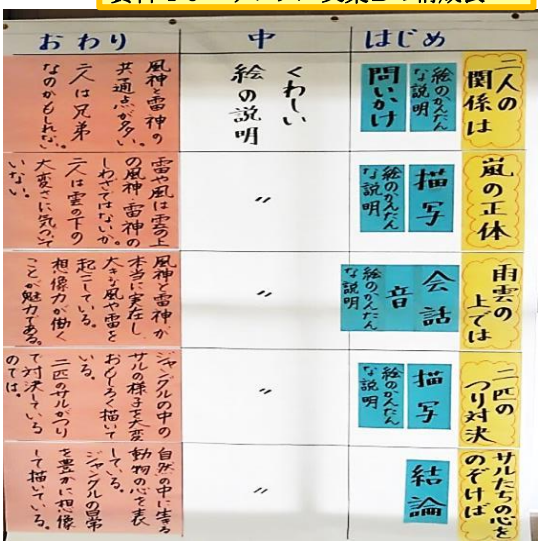
サンプル文集Ａには、これまで児童が書いてきた説明的な

文章のサンプル文を収集した。これらの文種と「鑑賞文」を比較することで、鑑賞文には人が見逃してしまうような部分に着目させ、その魅力を伝えて、理解してもらう内容や自分が絵から想像したことを、読み手に伝え納得してもらうような内容であることや、そのために読み手を引き付けるような書き方が必要だということに気付かせることができた。以降の活用においては、〈着眼２－②〉で述べる。

〈着眼２－②〉多様なサンプル文にふれ、児童が自分の伝えたいことに応じた表現方法を工夫することができるようにサンプル文集を活用する。

サンプル文集Ａ　高年で学習する文種 ・説明文　・意見文　・提案書　・活動報告書
サンプル文集Ｂ　鑑賞文 ・同じ題材でも構成や表現が異なる文章

資料４０　サンプル文集Ｂの構成表



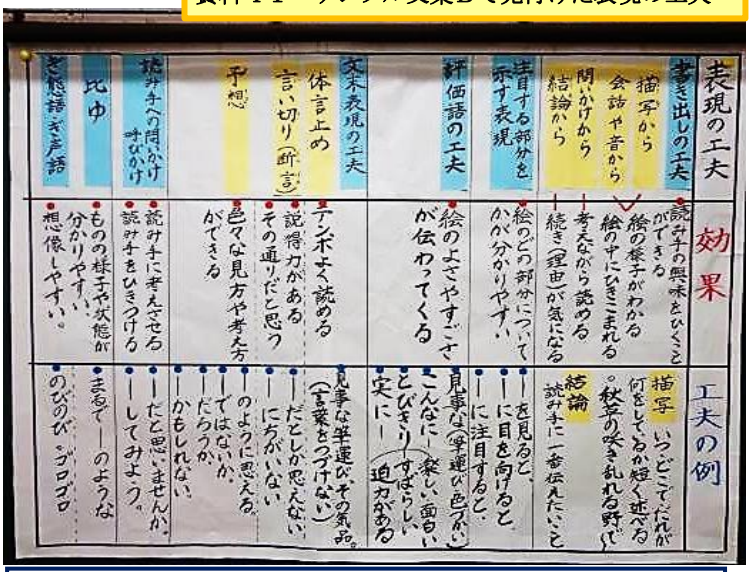
○　構成の段階

業間に行った「サンプル文集の視写」をした際にその文章の構成について話し合い、まとめる活動を設定した。**資料４０**は、児童と話し合いながらまとめた５種類の文章の構成表である。書き始めや終わりの部分に工夫がみられることが分かった児童は、自分の取材シートと見比べながら、工夫して構成することができた。

○　記述の段階

資料４１は児童がサンプル文から見付けた表現の工夫をまとめたものである。その際、**表現の工夫の名称**だけでなく、**その効果と具体的な例**を示すようした。この観点を取り入れながら下書きを進めた所、Ａ児は**資料４２**のような下書きを書くことができた。Ａ児の文章は全体的に話し言葉が多く用いられ、**「問いかけ」「絵に注目させる表現」表現の工夫」「体言止め」**などの書き方の工夫を多く取り入れて書くことができた。Ａ児のように意欲的にサンプル文から表現の工夫を見付けることができた児童は、表現の工夫についての理解が深まり、下書きの際にも活用することができていた。

資料４１　サンプル文集Ｂで見付けた表現の工夫



○　推敲

推敲においても、同じようにサンプル文から見付けた二つの表「表現の工夫」「構成の工夫」を活用した。この表を推敲の観点とすることで、児童は自分や友達の表現のよさや課題を見付け、よりよい表現に書き直すことができた。

⑦　W児の変容

W児は、国語の学習が苦手であり、特に文章を書くことに苦手意識を持っている児童である。

【Ａ児の下書き】

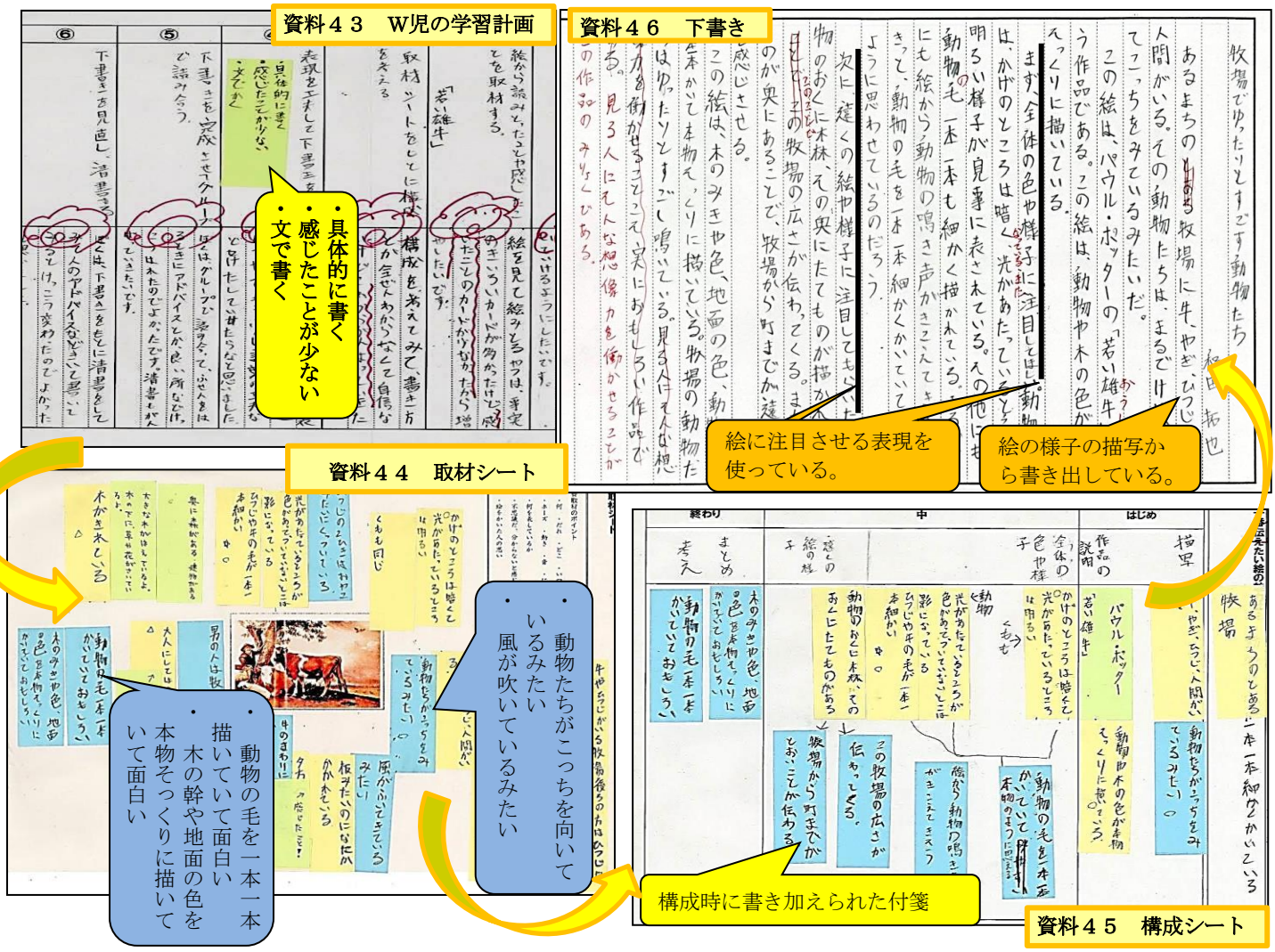
この絵には、不思議な所がたくさんある。皆は絵を見て「何？」と思う所はあったかな。私も色々な所で「何？」と思った。そんな謎をちりばめた絵って凄いと思わないかな。

まず、真ん中に小さいのにえらそうな女の子がいるよね。きっと彼女はこの絵の主役であり、おじょう様じゃないかな。女の子の周りをよく見てみると、左横に何かをあげながら、話しかけている人がいるよね。きっとおじょう様お付きの侍女に違いない

（中略）

この絵は「ラス・メニーナス」という絵。描いた人はディエゴ・ベラスケス。ラス・メニーナスというのはスペイン語で侍女という意味。だから、絵の中に侍女みたいな女性が描かれていたんだ。だとすると、真ん中の小さな女の子が王女様なのかもしれない。

資料４２　Ａ児の下書き



一次表現では箇条書きにしていたのだが、サンプル文を比較することで**資料４３**のような課題に気付き、自分なりの学習計画を立てることができた。

取材の段階では、**資料４４**のように自分の課題を解決すべく付箋を増やすことはできたが、事実（黄）と意見（青）の書き分けができず、友達からアドバイスカード（緑）をもらっていた。このアドバイスを生かし、構成の段階では、自分の一番伝えたいこと、「動物の毛が一本一本細かく描かれている」ところを中心に、事実と意見を書き分けたり、付箋を増やしたりすることができた（**資料４５**）。

記述の段階では、皆で見付けた表現の工夫をもとに、**資料４６**のように、①書き出しの工夫　②絵に注目させる表現　③「見事に」「細かく」「本物そっくりに」「まるで～そうだ」などの評価語の工夫　④文末表現の工夫など、自分の伝えたいことに合わせて効果的な表現を工夫することができた。

W児のように、文章を書くことを苦手としている児童にとって、表現の工夫を観点として示したことや、友達との交流によって悩みを相談したり、アドバイスを受けたりすることが有効に働いた。多様なサンプル文を示すことで、選択肢が増え、自分が伝えたいことに応じた表現を試行錯誤することができたと考える。いつもは個別指導が必要であったW児であるが、観点やねらいが明確な交流により、自分で考えを深め、適切な表現を工夫することができたのである。その結果、他の多くの児童も読み手に絵の魅力が分かりやすい鑑賞文を書くことができたと考えられる。

７　児童の変容

以下の表は各学年の観点別の３段階評価の６月と１２月の平均値の比較である。低・中・高学年のまとまりごとに同じ観点で評価を行った。結果が次頁の表である。